

# 共産党議員団が市に工場閉鎖撤回を強く求めるよう申し入れ

## 副市長・産業振興部長が応対

11月12日、日本製紙釧路工場のパルプ・製紙部門からの撤退表明を受けて、共産党議員団は緊急に釧路市への申し入れを行いました。13日に蝦名市長は副議長、商工会議所などともに野沢社長に面談を予定、その直前の緊急申し入れです。



12日時点で市長はすでに上京済み、この日は名塚副市長と要請行動に同行する秋里産業振興部長への申し入れとなりました。

村上かずしげ市議団長は、この間の共産党の調査に寄せられた労働者の声を紹介しつつ、「日本製紙の工場閉鎖を撤回するよう社長に強く申し入れてもらいたい」と述べました。これにこたえて名塚副市長は、「会社と地域はそれこそ長い歴史がある。工場が釧路市にもたらしてきたこともたくさんある。地域が工場にできてきたこともたくさんある。今回の撤退は、到底受け入れられない。」と、強い口調で工場閉鎖に反対であることを強調、オール釧路で工場存続を求める考えを示しました。

村上議員は、「労働者はコロナを理由にした工場閉鎖は許せないと言っています。こんなこと

を許せばあちこちで次々、解雇や工場閉鎖が続出します。こうしたときに、しっかりと雇用を守るのが企業の責任です。共産党も工場の閉鎖撤回を求めて頑張ります。市が先頭に立って、大きな市民運動をおこしましょう。」と締めくくりました。

野沢社長は市長の要請に対して、「地元の見解はわかかったが、工場閉鎖は会社にとっても苦渋の決断」と答えたようです。

日本共産党は、石川明美道7区予定候補を本部長に、日本製紙工場閉鎖対策本部を立ち上げて、工場閉鎖撤回の取り組みを進めます。

## 翻弄される社員

現職の日本製紙の社員の方がお話を聞かせてくれました。

問 工場閉鎖の話聞いてどう思いましたか。

答 本当なら年金の出る65歳まで働こうと思っていきましたが仕方がありません。前から業績が悪いことは繰り返し説明されていきました。会社は紙が売れず、釧路工場だけで毎年十億円以上も赤字になっていっていると聞いていました。4、5年前から、工場をたたむ時が来るなど、うすうす感じていました。とうとう、その日が来たという感じです。会社は工場をたたむ準備を進めていたんだと思います。アイスホッケー部の経費は全額が本社負担ですから、チームをなくしても釧路工場の経営がよくなるわけではありません。それでもチームをなくしたのは、工場を閉める準備だったんだなと思えます。

問 工場閉鎖の直接の理由は、どう説明されましたか。

答 業績が悪い中で、「コロナで先行きがわからなくなった」と説明されましたが、工場の中では「倒産したわけでもないのに、それはないよな」とみんな言っています。

問 今後のことで、会社からの説明はどうですか。

答 配置転換のことで話がありましたが、国内の大きな工場にみんな一緒に転勤するわけではないそうです。日本製紙は石巻や富士などに大きな工場があるのですが、今回はそういうところには異動できないと聞きました。大きな工場は就職した社員の定着もよく空きはない。退職が多い、条件の悪い職場に少人数ずつ

つ移す考えのようです。配置転換に応じようと思っていた人も、この説明を聞いて迷っています。

問 今後どうするのですか。

答 私は来年、定年なので退職することにしました。子どもも成人していますから、なんとかやっていこうと思っています。妻も「しかたないね」とあきらめてくれました。

問 ほかの方はどうですか。

答 配置転換せず早期退職する55歳以下の人には、退職金のほかに20か月分だとか、30か月分だとか、退職金に上乗せをするという話です。55歳以下の人でも、それをもらって早期退職する人も多いのではないのでしょうか。

大変なのは30代の若手です。これからお金のかかる家族がいたり、住宅ローンが残っていたりで、本当に気の毒です。

